

鷲畑山古墳 2号墳の発掘調査

前期古墳時代の方墳

東北芸工大 考古学研究室



鷲畑山古墳の2号墳の発掘調査報告会が6日、現地でおこなわれました。

発掘は、これまでも測量調査などをおこなってきた東北芸術工科大学考古学研究室の北野博司教授と学生等です。

出土品から判断

調査の結果、東西15・0m×南北16・3m、高さ3・3m(東側)



東北芸工大の北野博司教授が説明



全国各地の前期古墳から出土する「二重口緑壺」の口部分の破片が出土

の南北に長い「方墳」で、規模の割に高い墳丘であること。北からの眺望が良く、北側に集落など当時の生活圏があると予想されること。

墳丘は、西側が溝状に掘られ、北側と南側は地山(自然のままの地盤)が削り出しされ、東側に盛土されていること。

第1、第2トレンチ(発掘溝)で約110点の土器と石鏃(やじり)などが出土し、縄文土器が多数で、土師器片や古代の須恵器等2点も出たこと。

第2トレンチの溝上面から土師器の「二重口緑壺(こうえんつぼ)」の口部分の破片が出たことから、全国各地の

前期古墳から出土するものと同様であり、築造時期を4世紀前から中ごろと判断したこと。前期古墳では日本海側の最北端に位置するものとなり、当時、大和朝廷の古墳文化の祭

旧東田川郡役所を県指定から格上げを 加藤鉦一議員が9月議会一般質問で

加藤鉦一議員は9月議会一般質問で5日、「旧東田川郡役所と郡会議事堂を県指定の有形文化財から国指定に格上げを諮れないか」と質問しました。

文化庁が今年3月に発行した「近代遺跡調査報告書」で、全国の郡政から3つ選ばれ、そのうちの1つが旧東田川郡役所及び郡会議

式を受け入れた有力集団がこの地にあつたことを示す貴重なものであると明らかにしました。

これまで北緑の前期古墳は、新潟県胎内市の「城(じょう)の山古墳」とされています。

なお、鷲畑山古墳1号の発掘調査は、東田川文化記念館郷土研究所サークルと庄内考古学会を主体とした発掘調査会(会長・川崎利夫)が結成され、第1次が昨年9月、第2次調査が今年6月におこなわれ、直径26m、高さ4mの「円墳」と確定し、1号墳は5世紀に築造されたものと判断しています。

事堂で、特に巻頭写真として掲載され評価が高まっています。

明治20年に新築

教育部長は、「現在の郡役所の建物は、明治19年の火災により消失した後に、明治20年に新築されたものである。郡制が廃止された大正15年まで郡役所としての役割を果たし、その後、郡の農会の事務室として使用され、昭和18年から現在の藤島庁舎が新築される昭和59年まで藤島町役場として使用されてきた。

東田川郡会議事堂は、大正4年に発刊された「庄内案内記」に明治36年に改築されたと記載がある。

昭和59年に現在の藤島庁舎が新築されるまで藤島町の議会事務局教育委員会事務局等で使用されてきた。

国の調査に協力、情報等の提供に努める



旧東田川郡役所及び郡会議事堂 (山市農協内)

2つの建物は、昭和60年に藤島町の有形文化財に、昭和63年に県の有形文化財に指定され、平成元年から7年間で県の補助を受けながら解体保存修理がおこなわれた。平成8年に、隣接する東田川電気事業組合倉庫を含めて東田川文化記念館として開館し、多くの方々に利用されている。

「近代遺跡調査報告書」には、「建築当時の場所に移築されずに現存しているのは県内で唯一のものであり、建造物としての文化的価値のみならず歴史を語る史跡として大変意義がある」と記載されている。

国の文化財指定については、文化審議会の答申において指定されるものであり、市としては郡制時代の東田川郡の歴史を含め、建造物の歴史とその価値について掘り起こしに努め、国の調査に積極的に協力、情報等の提供に努めていきたい」と答えました。

9月議会 一般質問（加藤鉦一議員） 福祉灯油の制度化を



加藤鉦一議員は9月議会一般質問で5日、「福祉灯油の制度化」を取り上げました。

冬期間、灯油購入助成を

問 これからまた厳しい冬を迎えるが、灯油価格は1リットル当たり100円を超え高止まりしている。

10年前は40円台だったので、高齢者や生活困窮者が「灯油代が高くてやっていけない」と訴えている。

今年は年金の切り下げや消費税増税でいっそう暮らしが困難が拡大している。

福祉灯油の制度化で、高齢者世帯や生活困窮世帯に冬期間、灯油購入助成を実現できない

か。

急激な変動に対応困難な場合に

健康福祉部長 昨年12月の定例会、本年3月の定例会で実施の有無に関して質問があり、いずれも実施をしない考えであると答えた。

理由は第1に、灯油価格は少しずつは値上がりはしているものの、福祉灯油を実施した平成19、20年度のように価格が急騰するまでには至らず、ある程度予想される範囲内の値上がりである。

また福祉灯油を実施した背景には、急激な経済変動に対応することが困難な低所得で、

高齢、障害、一人親世帯などの生活支援、不安解消に資するためという経緯がある。

第2に、本市の財政事情として扶助費が増加しており、現行のサービス水準を維持していくためには、実施事業の選択をしなければならぬ。

福祉灯油は、灯油等価格の急騰への激変緩和対策として単年度ごと臨時的に実施した事業であり、通常事業として福祉灯油を制度化することは考えていない。

問 生活困窮者の暮らしの実態と灯油価格の高止まりの現実から判断すべきだ。

市長 基本的には国が行うべきであり、機会があれば国に申し上げていく。

第2次安倍改造内閣発足 「万世一系の国柄を次世代に」

こんな人が女性活躍相 改造でなく退陣を
——「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇

9月3日第2次安倍内閣が発足した。しんぶん赤旗は多様な角度から論調している。英国のある新聞は「4番

だ。安倍首相は特別顧問、高市早苗総務相は副会長、その他多くが役員になっている。

過去最多の5人の「輝く」女性が入閣した。その一人有村治子女性活躍相は、昨年の参院選で日本会議推薦を受けて当選。日本会議発行の月刊誌『日本の息吹』に、「万世一系の国柄を次世代に」のテーマで、「戦後の教科書からは、万世一系という言葉は消えました。そこから始めていかなければいけない」などと書き、臆面もなく天皇中心の「日本の国柄」を教育に持ち込む狙いを語っている。本来なら首が飛ぶ発言であろう。



スケールデメリット

またも歌から。ミノ着て力サ着てクワ持つて……知ってる人は少ないと思うが、今年も豊年満作でお米が沢山獲れるよう、と続く働くことを讃える歌だ。

▼一生懸命が捻って刈り取りを前にした先日、農協の集落座談会があった。半世紀前、俺が20代の頃は3反歩しかない我が家も入れて、実行組合は20戸を越えていたが、米づくりは今10戸足らずだ。その分集約化されて大規模経営になったのだが。

▼農協の資料では、藤島支所が取り扱う販売が対前年で1億円も減っている。これも心配だが一番の心配は米価がナンボになるかだ。

▼何年か前までは、国が国民の胃袋に責任を負い農家の経営にも責任を持つ食糧管理法があったが、米は食糧だったが、法律がなくなり

ればいけない」などと書き、臆面もなく天皇中心の「日本の国柄」を教育に持ち込む狙いを語っている。本来なら首が飛ぶ発言であろう。

盟友とする米国さえ「安倍氏は戦時中の行為について、日本は不当な批判を受けているとするグループと連携」といい、日本会議と密接な関係があるとしている。ご退陣願いたいものだ。

国は責任を放棄した。▼だから安心して米づくりができないから、跡取りがいなく高齢化が進む状況が続く。

▼今は技術が確立し、10㍏（1反歩）で10俵は獲れるが、10万円以下になるか心配されている。

▼規模拡大は当然小作があるから、1万数千円の小作料を払い、トヨタ自動車は払っていないという消費税を納め、肥料・防除・償却・水利費と引けば残らない。

▼国が進める大規模化の実態がコレだ。誰かの話の中でスケールデメリットと話され、新造語か、という声があったが正にその通りなのだ。スケールメリットを説いてきたがそれにデが入る結果に。

▼みんな考えてよう。今でも米を輸入している。どうすれば米農家を守れるか。買って食べる米は安くはならないんだし。（石川）



しんぶん赤旗9月6日付